



**救援物資をご協力いただきありがとうございました。**  
皆様から頂きました支援物資・善意を岩手県大槌町・宮城県気仙沼市・東松島市・松島町・南三陸町にお届けしました。

自民改革会議 **五輪会** おち あい しん ご  
**静岡県議会議員 落合慎悟**



**静岡県議会報告**  
平成23年9月5日号(年5回発行)

**3月11日14時46分 宮城県沖でM9地震発生 東日本大震災 被災地視察・救援支援活動・防災対策講座**



被害状況を視察

**3月13～16日 被災地視察** 13日急遽支度をして日本海側から現地入りした。被災地大変悲惨な状況で、食料・衣料・燃料何もなくて困っていた。

**3月17～31日 救援物資支援** JA大井川女性部・ロータリークラブ・青年会議所・築地自治会などと救援の輪がどんどん広がった。



**4月18～21日 第2回被災地視察** 子供の絵本など救援物資を満載し、岩手県山田町大槌町に向かった。南三陸の歌津町避難所に泊まり、救援物資を届け、聞き取り調査した。

4/18落合事務所出発 南三陸町歌津地区長 歌津中学避難所に宿泊 大槌町避難所 山田町総務部担当官  
大槌町役場 山田町防潮堤 気仙沼市の津波被害 南三陸志津川地区 松島町副町長

**5月10日市民講座『東日本大震災フォーラム』** 皇山宮城県議会議長が県知事のメッセージを届けてくれた。

宮城県議長と県議が被災の実体験を話し、仁科静岡県支援隊長は救援状況を語った。救援物資を集めた(株)モエリーの西澤氏と運送を担当した山岸運送(株)社長からもなぜ支援活動に至ったのか、放射能を恐れず運んだのかも話してくれた。

**7月17日市民講座『放射能汚染…子供達のために』** 武田邦彦教授

放射能汚染について知りたいとの要望で有名な中部大学教授の武田先生にメールを送ったところ、藤枝に来てくれることになった。当日は450人も参加者で小杉苑の椅子が足らず、事務所から持ち込んだ。先生の解り易く面白いお話で放射能を理解できた。参加者の講評は大変良かった。

3/28 落合事務所 松島町へ救援物資最終の積込み 3/27 大震災視察報告会 島田の運送会社河村常務と 5/21 藤枝駅前商店街大震災フォーラムで講演

東松島市縄文村避難所で『炊き出しボランティア』を実施しました。総勢30名がバスで片道9時間かけ南三陸町を視察し松島野外活動センターに泊まり、翌朝から炊き出しをしました。新聞チラシで募集した参加者は市職員・看護師・小学教員・保育園職員などと共に主婦、町内会長と多彩な顔ぶれでした。食料は朝ラーメン150食、静岡おでん900食、アジのひらき200匹、藤枝茶です。多くの方々から寄付で提供していただきました。ラーメンを自分たちで調理する予定でしたが、150食も一度に作ることは不可能と分かり、本職の長島さんに来てもらいました。災害地の避難所や避難民の本当の姿はテレビや写真では感じません。現地に行って初めて現実が分ります。参加された皆さんが県民のために今回の体験を活かして頂ければ企画した私も有難いと思います。多くの人の協力と実施できました。深く感謝申し上げます。

**7月23～24日炊き出しボランティア活動**

南三陸町に到着!! 辺り一面の悲惨さに然然としてしまった。

松島野外活動センター泊 現地の奥松島の状況 午前11時開店!!もうお客!! どうぞ『朝ラーメン』です 静岡おでんも美味いよ ラーメンは時間が勝負 評判は良いが皆持ち帰り  
朝食は安部県議女性部提供 長島料理長の指示で朝ラーメン準備開始 アジのひらきは炭焼で 藤枝茶を冷茶でどうぞ 子供達から『美味しい!!』 箱をもって取りに来た 完売!!皆さんご苦労様

**静岡県藤枝総合庁舎** 藤枝市瀬戸新屋362-1  
総合庁舎に入所している事務所の紹介  
志太藤原農林事務所 市町と協力し農業・林業の指導支援  
藤枝財務事務所 個人法人県民税など県税の徴収業務  
中部健康福祉センター 福祉・医療・衛生・環境(保健所)業務  
中部地域支援局 地域における活動の支援  
中部危機管理局 地域防災の拠点

**8/25 中部地域支援局 内野 稔 局長から中部地域支援局について伺う。**

地域支援局は県内には、賀茂地域・東部地域・西部地域と中部地域の4か所ある。地域支援局とは、市町を超えた広域的な課題や市町単独では解決が困難な課題など、市町等の多様化、高度化するニーズに迅速かつ確かな対応を図り、魅力ある地域づくりをサポートするために組織され、業務としては、①地域情報の収集・提供 ②地域課題への対応 ③広域連携への支援 ④地域における県の代表 中部地域支援局としては富士山静岡空港関連の観光や地域振興も大事な取り組み課題。

全県的な連絡や知事との連絡調整のために知事、副知事、各部の部長代理、局長が出席して定例支援局長会議を隔月におこなっている。さらにその隔月間には、各部の広報連絡調整会議を行い県内の情報収集する場となっている。この会議はオピニオンリーダーや地域の代表などとの意見交換時の意見を報告する場でもあり、商工関係や農業関係者にも連絡事項は伝えるようにしている。広域連携をする時が支援局として力が発揮できる。観光協会や行政の観光担当職員はパンフレット作成だけでなく支援局を利用し観光など広域な調整にも活用して欲しい。

**8/25 中部危機管理局 油井日出雄 局長から中部危機管理局について伺う。**

危機管理局も地域支援局同様に4か所ある。地震や台風など自然災害、大規模事故、国民保護対策に加え、感染症の拡大や食の安全問題など、県民を取り巻く「あらゆる危機事案」について、一元的に対応する県の優先機関として、平成21年4月に発足した。想定される東海地震への備えを主体に、防災体制の強化や自主防災組織の活性化、防災意識の啓発、住宅の耐震化の促進に取り組んでいる。大規模な災害や重大な危機事案が発生した場合には、県災害対策本部の中部方面隊の本部として、市町や関係機関と連携して災害対策にあたる。危機管理は「いざさかの地帯も許されぬ」という気構えを持って、危機管理対策を推進し、『安心安全日本一』を目指している。管轄する市町(5市2町管内人口約120万人) 静岡市、焼津市、藤枝市、牧之原市、島田市、吉田町、川根本町 想定される災害、危機事案とは、地震、津波、火山、風水害、大火災、大爆発、大規模事故、石油コンビナート災害、原子力災害、テロ、武力攻撃、感染症(SARS・新型インフルエンザ)、食の安全(食品毒物混入、食中毒、飲料水汚染)等あらゆる危機事案

危機管理は日頃の防災意識を高揚し、啓蒙活動を行ない、職員の体制づくりが大切である。災害が起きた時には自主防災組織の役割は大きい。日頃の近所付き合い合いが大事である。最近はお客が多くなり、近所に大人が少なく学生の力も頼りである。またボランティアも力をつけてきている。